

公共事業事後評価調書

1 事業概要		整理番号	H26 - 1
事業種別	治山事業	事業主体	青森県
事業名	復旧治山事業	管理主体	青森県
箇所名等 (市町村名)	米山 (鱒ヶ沢町)	事業方法	● 国庫補助 ○ 交付金 ○ 県単独
		財源・負担区分	●国50% ●県50% ○市町村 % ○その他 %
事業の背景・必要性	<p>本地区は、平成18年8月の豪雨により山腹斜面が崩壊し、流した土砂が人家、県道等に流出した。崩壊斜面を放置しておくこと拡大崩壊の危険性もあり、人家、県道等に土砂が再流出する恐れがあることから、溪流に堆積した土砂の流出を防ぐため治山ダム工を設置し、山腹工により山腹斜面を安定させ被害を未然に防止したものである。</p>		
主な事業内容 (事業量)	治山ダム工N=3個、山腹工 A=0.27ha		
想定した事業効果	<p>《金銭価値化が可能な効果》</p> <p>水源涵養効果 ・森林の状態が良好に保たれる(荒廃地等を緑化復旧等する)ことで、洪水防止等に寄与する効果</p> <p>災害防止効果 ・山腹崩壊や土石流等の山地災害による人家や公共施設等への被害を防止する効果</p> <p>《その他の効果》</p> <p>—</p>		
事業の実施経過	《事業着手》平成19年度 《用地着手》 — 《工事着手》平成19年度 《事業完了》平成21年度		
公共事業評価の実施時期	事前評価時(H18年) [当初計画時]	再評価時(年)	事後評価時(H26年) [最終実績]
事業期間(事業着手～事業完了)	H19 ~ H21	~	H19 ~ H21
総事業費	82 百万円	百万円	115 百万円
計画変更の実施時期	第1回計画変更(H20年)	第 回計画変更(年)	第 回計画変更(年)
事業期間(事業着手～事業完了)	H19 ~ H21	~	~
総事業費	117 百万円	百万円	百万円
特記事項	<p>【第1回計画変更内容】</p> <p>実施年度に行った調査測量委託の結果、対策を要する区域の拡大(1.85ha→2.09ha)や施設計画の見直し(治山ダム工1個→3個、山腹工1.85ha→0.27ha)が必要になったことから事業費の増額変更を行った。</p>		
《事業概要図》			
担当部課室名	農林水産部林政課	電話番号	017-734-9524
		E-MAIL	rinsei@pref.aomori.lg.jp

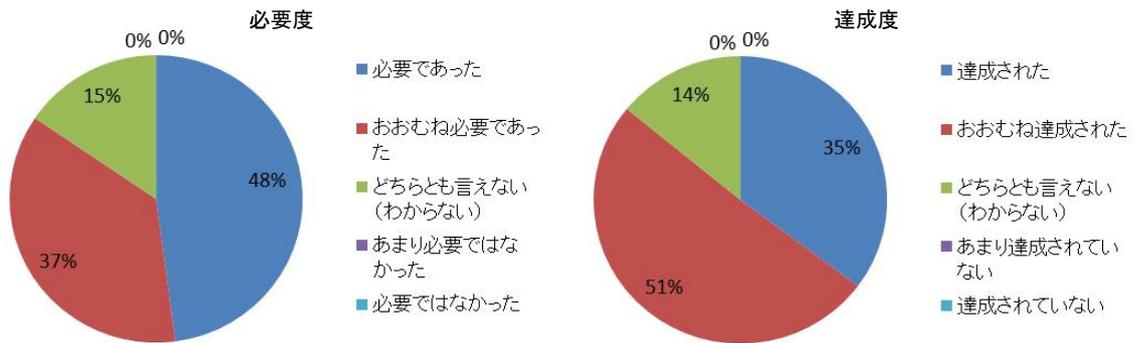
2 事業完了後の状況

整理番号 H26 - 1

社会経済情勢等の変化
 ・近年の異常気象による局地的豪雨・地震等により、全国各地で毎年人的被害を伴う山地災害が発生しており、山地災害防止に対する社会の要請はますます高まっている。
 ・昨年の台風第18号等による大雨で、県内でも多数の被害が発生していることから地域住民の山地災害防止等の防災意識は高まっている。

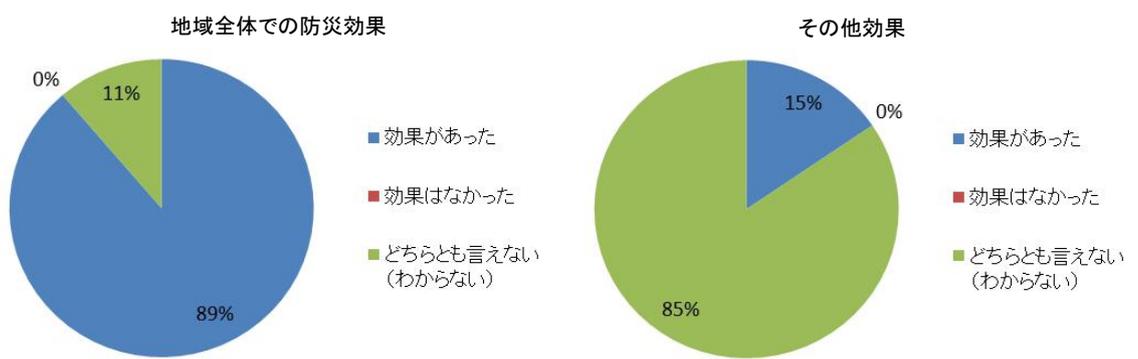
費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化
 ・総事業費が増加した要因は、実施年度に行った調査測量委託の結果、施設計画の見直しにより工事費が増加したものである。
 ・便益算定の基礎となる人家戸数・公共施設等に変更はないが、評価基準年の見直しにより増となっている。

《金銭価値化が可能な効果》
 ・農作物、公共施設等への直接被害防止（被害軽減効果409百万円）
 治山事業の実施により、地域住民の生命、財産及び県道が保全される。
 【工事の必要性】に関するアンケート結果では、85%の人が「必要」または「おおむね必要」と回答しており、「必要ではなかった」または「あまり必要ではなかった」との回答はなかった。
 【工事の達成度】に関するアンケート結果では、86%の人が「達成された」または「おおむね達成された」と回答している。



事業効果の発現状況

《その他の効果》
 ・防災意識向上効果
 【地域全体での防災効果】に関するアンケート結果では、89%の人が「効果があった」と回答している。意見としては、「土砂災害がなくなった」との回答を得ている。
 【その他効果】に関するアンケート結果では、15%の人が「効果があった」と回答しており、「効果はなかった」との回答はなかった。



《参考（費用便益比）》

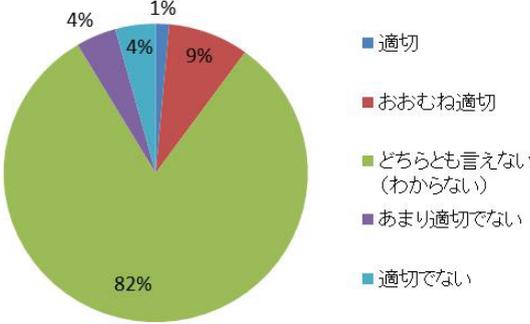
	事前評価時 (H18年)	再評価時 (年)	事後評価時 (H26年)	
総費用 (C)	79 百万円	百万円	146 百万円	
総便益 (B)	310 百万円	百万円	423 百万円	
内訳	水源涵養効果	9 百万円	百万円	14 百万円
	災害防止効果	301 百万円	百万円	409 百万円
		百万円	百万円	百万円
費用便益比 (B/C)	3.94		2.90	

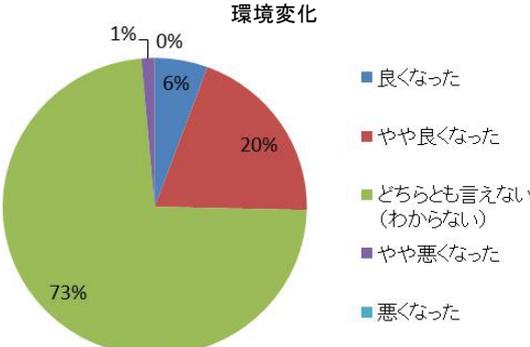
《特記事項》

—

2 事業完了後の状況

整理番号 H26 - 1

事業により整備された施設の管理状況	<p>・事業が完了してから5年経過しているが、現在まで災害や施設の損傷もなく斜面は安定している。 【管理状況】に関するアンケート結果では、管理が「適切」または「おおむね適切」との回答が10%に対し、「どちらとも言えない（わからない）」が82%と回答している。 どちらとも言えない理由としては、「県で管理していることを知らなかった」、「巡視に来た人を見たことがない」との回答を得ている。 その他意見として、「異常時の連絡先がわからない」、「定期的に巡視しているのか」との回答があった。</p> <p style="text-align: center;">管理状況</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>■ 適切</td></tr> <tr><td>■ おおむね適切</td></tr> <tr><td>■ どちらとも言えない (わからない)</td></tr> <tr><td>■ あまり適切でない</td></tr> <tr><td>■ 適切でない</td></tr> </table>	■ 適切	■ おおむね適切	■ どちらとも言えない (わからない)	■ あまり適切でない	■ 適切でない
■ 適切						
■ おおむね適切						
■ どちらとも言えない (わからない)						
■ あまり適切でない						
■ 適切でない						

事業実施による環境の変化	<p>《「環境影響への配慮」の効果発現状況（特に留意した配慮内容がある場合）》 周辺環境に配慮し、法枠内を全面緑化している。現在では植生も安定し、周辺環境に馴染んでいる。</p> <p>《その他の環境の変化》 【環境変化】に関するアンケート結果では、「良くなった」または「やや良くなった」が26%と「悪くなった」または「やや悪くなった」の1%を上回る結果となっている。また、「どちらとも言えない（わからない）」が73%と最も多い回答である。</p> <p style="text-align: center;">環境変化</p>  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr><td>■ 良くなった</td></tr> <tr><td>■ やや良くなった</td></tr> <tr><td>■ どちらとも言えない (わからない)</td></tr> <tr><td>■ やや悪くなった</td></tr> <tr><td>■ 悪くなった</td></tr> </table>	■ 良くなった	■ やや良くなった	■ どちらとも言えない (わからない)	■ やや悪くなった	■ 悪くなった
■ 良くなった						
■ やや良くなった						
■ どちらとも言えない (わからない)						
■ やや悪くなった						
■ 悪くなった						

3 まとめ

改善措置の必要性	<p>【工事の改善点】に関するアンケート結果では、「改善点はない」が29%と「改善点がある」の3%を上回る結果となっており、改善措置の必要性は無いものとする。 ただし、少数ではあるが「改善点がある」との回答もあったことから、事業説明会等の際に地域住民の意見を更に聞き取りしていく必要がある。</p>
再度の事後評価の必要性	<p>「事業効果の発現状況」のとおり、全体として事業目的は達成されているものと判断できることから、再度の事後評価は必要ないものとする。</p>
今後に向けた留意点	<p>《同種事業の計画・調査の在り方》 事業実施時の詳細調査の結果、施設計画の見直しにより工事費が増額となっていることから、同種事業の調査においては更なる入念な調査を行う必要がある。</p> <p>《事業評価手法の見直し》 —</p> <p>《同種事業の内容・手法等の在り方》 防災関係など同種事業においても、整備した施設の効果が持続するよう、施設点検の充実に努める必要がある。</p>
特記事項	—